

不動公民館報

不動町の地名

不動公民館長 岸岡俊憲



ある時町内の若い人から私達の住む不動町と云う地名は、昔から云われていたのかとの質問がありました。私はこの質問を大変意外に思いました。小中学校での郷土史は余り覚えていないのに驚き、改めて書くこと



徳島市民憲章

わが徳島市は、美しい眉山の緑と清らかな吉野川の流れに恵まれ、輝かしい伝統と限らない発展性をもった都市です。

わたしたちは、徳島市民であることに誇りと責任をもち、郷土の繁栄とおたがいの幸福をきずくために、みんなで力を合わせ、みんなで行うべき生活のよりどころとして、この憲章を定めます。

- 1 わたしたちは、まごころをもって助け合い、すべての人に親切にしましょう。
- 1 わたしたちは、健康で仕事に励み、明るく楽しい家庭をつくりましょう。
- 1 わたしたちは、協同生活のきまりを守り、平和で安全な社会をきずきましょう。
- 1 わたしたちは、自然や公共物をたいせつにし、美しい町づくりに努めましょう。
- 1 わたしたちは、豊かな教養を身につけ、すぐれた文化を創造しましょう。

昭和43年10月1日制定

人口男子	1,732
女子	1,849
計	3,581
世帯数	1,356
平成12年12月1日現在	

館 長 岸 岡 俊 憲
 行 公 民 館
 責 任 者
 不 動 公 民 館
 岸 岡 俊 憲
 刷 印
 刷 印 刷 刷
 刷 印 刷 刷
 刷 印 刷 刷

にしました。

不動という地名は昭和三十年一月一日この地が徳島市に合併した時、それまであった新居町（昭和二十七年より施行）の地名を、合併記念として町内のお不動さん（密厳寺）の名前をとって改称されました。

もともと不動地区は江戸時代（蜂須賀の藩政時代）には名東郡南新居村、北新居村、高崎村の三村に分かれていましたが、明治二十三年三村が合併して新居村となり今まであった村の名前を大字名として残すことになりました。

昭和二三年北新居村字名田が板野郡藍住町に合併され分与されました。現在はこの大字名が不動本町（一）三丁目、不動西町（一）四丁目、不動北町（一）二丁目、不動東町（一）五丁目として呼ばれています。次にかつての大字名のあらましについて調べて見ましよう。

○南新居村（江戸時代）明治二三年までの村名

この時代のこの村の収穫高は約一五〇〇石余となっています。なお耕地は全体の一〇パーセントが水田で、四〇パーセントが陸田で、文政五年（一八二二年）の戸籍によりますと、戸数二五七戸、人口一、二一〇名で、収穫高一五〇〇石のうち藩主に納める年貢米が六三四石、持明院領（眉山大滝山）に五一石、残りは梯子太郎、佐渡半兵衛等藩士二三名の知行地になっていました。

○北新居村（江戸時代）明治二三年までの村名

この時代この地の収穫高は約一〇〇〇石余になっており、耕地は九〇パーセントが水田で、文政五年（一八二二年）の戸籍によりますと、戸数二一八戸、人口一、〇一八人になっています。収穫高一、一〇〇石のうち藩主への年貢米四七三石、残りは武谷列知、永見鉄二郎等藩士二八名の知行地でした。

この地も吉野川、鮎喰川の氾濫源となっていました。

この地も吉野川、鮎喰川の氾濫源となっていました。が、氾濫によって肥沃な土壌が得られ、他の二村と同じように藍作は盛んで反当上葉藍の収穫高は三〇貫以上になっていました。村人は何時も河川の氾濫に悩まされてきました。

一方この地が上葉藍が反当二五貫以上収穫されていましたが、毎年の吉野川、鮎喰川の洪水にはかなりなやまされていきます。特に天保の大飢饉の際には鮎喰川原に救済小屋をたて、約四、〇〇〇人の人に朝夕かゆをたいて施したことは余りにも有名です。

この時代この村の収穫高は一五〇〇石余になっており、耕地は六〇パーセントまでが陸田、四〇パーセントが水田で、文政五年（一八二二年）の戸籍によりますと、戸数二七〇戸、人口一、四二二名になっていました。収穫高一五〇〇石余の

うち藩主への年貢米が六五〇石、持明院領（眉山大滝山）へ六石、残りは寺沢主馬等藩士三二名の知行地となっていました。

大宝年間（七〇一年）僧行基が諸国行脚のさい、この地で霊木に不動尊をきざ

私達の住んでいる不動地区は歴史的に大変古い町でそこに住む私達は大いに誇りを持たなければなりません。追伸（東町を中心とした不動町の歴史の冊子の中に不動町の簡単な歴史を載せていますので必要であれば提供致します。公民館総合センターにあります。）

鎌田家、高崎村では井形家、元木家等でした。

地域の中の保育所

不動 保育所

保育所は、ひとりひとりの子どもを大切にしながら年齢や発達にあった環境づくりをし、家庭的な、くつろいだ雰囲気の中で、保育(養護と教育)をする施設です。不動保育所では、保育目標や、めざす子ども像(①心もからだもじょうぶな子ども②豊かな感性をもち、生き生きと表現できる子ども③自分で考え行動できる子ども④仲間を大切に、思いやりのある子ども)をもとに、〇・一歳児十四名、二歳児十四名、三歳児十四名、四歳児十五名、五歳児十六名、計七十二名の子どもたちが、兄弟姉妹のように毎日楽しく生活しています。ひとりっこや、

兄弟、姉妹の少ない子どもたちにとって、年長児は、小さい友だちと遊んだり、できない事を手伝ってあげたり、小さい友だちは、お兄さんやお姉さんの、やさしさに触れたり、感謝の気持ちを、ことばしぐさで伝えたりするほほえましい姿が、あそびや生活の中で見られます。

〇・一歳、二歳児の生活(デイリープログラム)をご覧ください。

昼食の時間や、昼寝の時間など少しずつ違ってきます。年齢によって、子どもたちに無理のない生活が求められるよう、プログラムが組まれています。三歳以上児の生活は、ほとんど変わりま

デイリープログラム

登 視 遊	お や つ	遊 び	昼 食	昼 寝	登 視 遊	お や つ	遊 び	昼 食	昼 寝	登 視 遊	お や つ	遊 び	昼 食	昼 寝	登 視 遊	お や つ	遊 び	昼 食	昼 寝	
8:00	9:30	10:00	11:30	12:50	13:00	14:00	15:00	16:00		8:00	9:30	10:00	11:30	12:50	13:00	14:00	15:00	16:00		
0・1 歳										2 歳										

せんが、保育内容が違ってきます。特に小学校入学前の五歳児は、地域の行事にも積極的に参加したり、秋頃からは昼寝もなく、充実した毎日を小学校入学に向けてがんばっています。保育所の特徴のひとつに、給食があります。〇・一歳、二歳児は完全給食、三歳以



上児は主食(ごはん)だけ持って登所します。副食やおやつは、調理員さんが、離乳食から、手づくりおやつ(例、人参入りホットケーキ、みたらしだん、スイートポテト等)副食(例、干しだいこんの卵とじ、ひじきのいり煮、魚のみそ煮等)行事食(例、七草がゆ、いのこずし、お子さまランチ等)子どもたちが好き嫌いをなく食べやすいように、材料を小さく細かく切って薄味で調理してくれているの

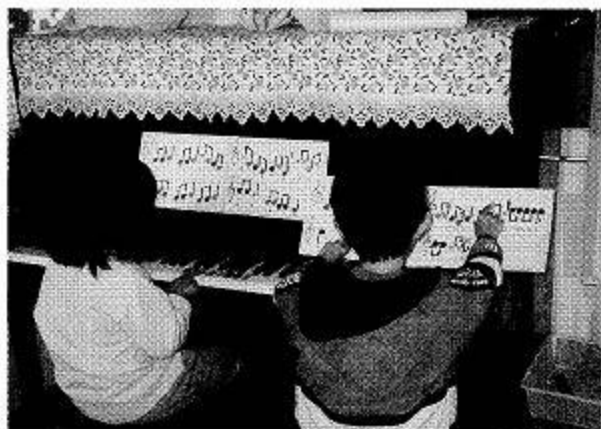


で、おいしい給食を毎日食べています。子どもたちは、保育所の給食が大好きです。残飯もほとんどありません。不動保育所の子どもたちは愛情のこもった給食をいただいて本当に幸せだと思えます。

もっと不動保育所の事を知っていただきたいと思う思いはいっぱいです。子どもさんや、お孫さんが保育所に通ってなくても結構です。子育てに悩んでいる方も気軽に保育所にあそびに来ませんか。お話をしませちゃん、竹とんぼやこままわし、おはじきやあやとりなど伝承あそびを子どもたちに教えてあげて下さいませんか。二十一世紀を担う子どもたちを、地域の方々と一緒に見守っていききたいと思えます。

様々な体験の中で育つもの

不動 幼稚園



「音楽会しよう!」ピアノを子どもたちの目に触れやすい廊下に移したところ、通りがかりに音を出したり知っている曲をさぐり弾きする姿が見られるようになってきた。そこでもっとピアノに親しめるよう、手作り楽譜を用意することにした。かわいい絵がついた色楽譜は子どもたちの興味をそそり、今までピアノに触れようとしなかった男の子も「僕、これ弾けるんぞ」「A子ちゃん上手やなあ」と友達と一緒に楽しそうに弾いている。

タイミンク良く、中学校の生駒校長先生のファミリーコンサートに参加させていだき、本物の音楽を目の前で楽しむことができた。

演奏会の翌日「音楽会しよう」という子どもの提案で、リズム室にタンブリン、木琴等の楽器を出して音楽会が始まった。「先生、何か曲かけて」「ステージ作るけん、手伝って」「お客さんの席もいるなあ」

「僕、指揮者になるけん」次々と楽しいアイデアがとび出し大音楽会となった。演奏の合間には、歌や踊りも次々とくり広げられ、楽しい音楽遊びは何日も続いた。

子ども達のパワーと感受性、想像力に感心させられながら「将来、不動から大音楽家が生まれるかも……。」

かにかにしている私たちである。これからも、子どもたちの心をゆさぶる経験や遊び、環境を真剣に考えていきたいと思っている。



「明日も自転車に乗ろう！」
2 学期の初めごろ、「僕
自転車に乗れるようになったよ」という A 君の言葉に、自転車に乗れなかった子どもたちは、かなりショックを受けたようだった。今まで何度も自転車に乗り誘っても「今度するわ」と興味を示さなかった子が、がぜんふるい立ち、「先生自転車に乗るけん後ろ持って」「見て、見て！ちょっと乗れたよ。」「よーし、明日も乗るぞ！」と意欲的になってきた。転んで足をすりむいても、根気強く何度も挑戦し、乗れるようになるまでがんばりぬいた。

と見ていた 4 歳児が挑戦し始めた。
早く乗れるようになりたい気持ちや、乗れるようになった嬉しさから、友達に自転車を譲ることができず、トラブルがよく起きた。私は、その姿を見守りながら、必要に応じて助言したり、励ましたりしてきた。子ども同士がぶつかり合う中で、自分の思いを言葉で表現したり、相手の気持ちに気付いて思いやりを持つたりしながら、自転車を譲り合えるようになってきた。友達同士で教え合ったり、励まし合う姿も見られ始めた。

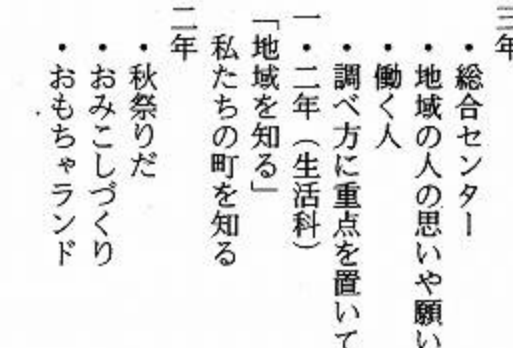
幼稚園では、友達同士が刺激し合いながら、時には競い、時には励まし合う中で、幼児期に大切なものをたくさん身に付けている。自己表現力や相手に対する思いやり、最後までやりぬく根気強さ、自分でやってみようとする意欲等は集団の中、様々な体験を通して育つものと考えている。
これからも、様々な体験の中で一人一人が生かされる保育を大切にしながらがんばっていききたい。

総合的な学習

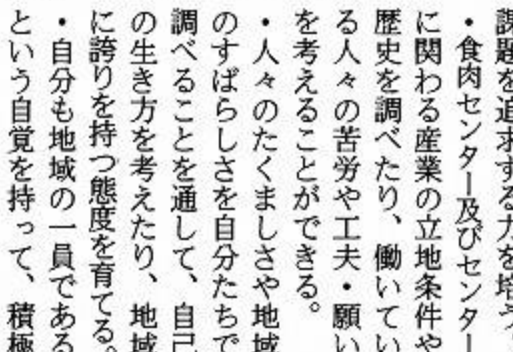
不動小学校



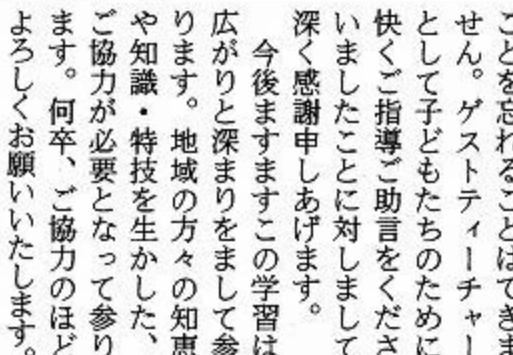
昨年度、「総合的な学習時間」について、公民館報の学園からの記事にもふれられていましたが、本年度よりいよいよ試行錯誤を繰り返しながら取り組みが始められました。ここに一部紹介させていただきます。
学校テーマ
地域を知り、地域に学び、地域とともに生きる
各学年のテーマ及び題材を次のように設定しました。
五・六年
「地域とともに生きる」
地域に誇りをもつ
六年
・ 町しらべ
・ ふるさとカーニバル
・ 国際理解
・ 越境対策
・ 不動町の歴史



三年
・ 総合センター
・ 地域の人の思いや願い
・ 働く人
・ 調べ方に重点を置いて
一・二年(生活科)
「地域を知る」
私たちの町を知る
二年
・ 秋祭りだ
・ おみこしづくり
・ おもちゃランド



一年
・ 秋祭りだ
・ おみせやさん
・ おいもがとれたよ
次に少し詳しくその取り組みを紹介させていただきます。
食肉センター探検記
第五学年
目標
・ 食肉センターをはじめ関連産業を調べるなかで地域の人々とふれあい、町をよくしていくこうとする人々の願いや努力に気づき、学習課題を追求する力を培う。
・ 食肉センター及びセンターに関わる産業の立地条件や歴史を調べたり、働いている人々の苦勞や工夫・願いを考察することができる。
・ 人々のたくましさや地域のすばらしさを自分たちで調べることを通して、自己の生き方を考えたり、地域に誇りを持つ態度を育てる。
・ 自分も地域の一員であるという自覚を持って、積極



的に町に関わりを続けようとする心をもつことができる。
子どもたちはこの学習を通して、今までおぼろげながらしか知らなかった食肉産業やその関連産業について少しずつ理解を深めることができたようです。自分たちで調べたいことを決め、計画を立て、まとめていくなかで「いきる力」獲得のための方法や力を習得しつつあるのではないかと考えます。また、ここで地域の方々の大きな協力があったことを忘れることはできません。ゲストティーチャーとして子どもたちのために快くご指導ご助言をくださいましたことに対しまして深く感謝申し上げます。
今後ますますこの学習は広がりと深まりをまして参ります。地域の方々の知恵や知識・特技を生かした、ご協力が必要となって参ります。何卒、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

地域の教育力

不動中学校

平成十四年度より中学校では「総合的な学習の時間」が完全実施されることになっていきます。「総合的な学習の時間」では、「自分自身で課題を見つけ、自ら学び考え、課題を解決する資質や能力を育てること」と、「学び方や考え方を身につけて問題解決に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自分の生き方を考えることができるようにすること。」とが要求されています。そして、各学校では、「地域や学校、生徒の実態に応じて、生徒の興味・関心に基づく学習など創意工夫を活かした教育活動を行うこと。」ができるようになりました。

不動中学校では、昨年度県教育委員会より「新教育課程推進モデル校」の指定を受け、「総合的な学習の時間」の実施に向けて準備を進めてきました。その取り組みの柱が、次の二つです。

- ・地域の教育素材や人材の活用。
- ・生徒に自尊感情を育てるとともに、地域への誇りを持たせる。

昨年度は、一年生では「不動町を知るフィールドワーク」を行い、総合センターの働き、下塚深吉先生、不動町の歴史、差別との闘い等について、地域の方々



よりお話をうかがい、地域の特性を知ることができました。また、地域の方の中学生にかけられる思いや期待を直に感じることもできました。な体験であったと思います。さらに、今後解決すべき地域の課題を知るきっかけとすることができ、今年の活動につなげていきます。



に一石を投じたという意味はあるのではないのでしょうか。

本年度は、一年生が「未来の不動町の立体マップづくり」、一年生が「不動町の土地利用を考える」というテーマで取り組んできました。ともに、現在の不動町の問題点を解消し、誇りを持てるような将来の町づくりを求める取り組みです。まだまだ、はじめたばかりですが、「誇りある学校づくり」から始め、「誇りある町づくり」までステップアップしていきたいと考えています。

三年生は、児童館・保育所等での聞き取り学習や保育実習を行ってきました。「将来の自立・家庭生活に備える」というテーマで取り組んできました。将来に向けての職業観を養い進路決定の一助にするという意義もありました。

これまでの取り組みのどれも地域の教育力なしにはできないものばかりです。



今後とも学校と地域が一体となった取り組みを進めていきたいと考えておりますので、ますますのご支援・ご協力をお願いいたします。

不動中学生の活動記録

スポーツ活動関係

- ◎徳島陸上競技カーニバル
- 棒高跳(一位)出崎将宏
- 円盤投(三位)仁木悠介
- 砲丸投(三位)井原由実
- 円盤投(三位)井原由実
- 砲丸投(二位)井原由実
- 砲丸投(二位)井原由実
- ◎県陸上競技大会
- 砲丸投(三位)井原由実
- ◎徳島市中学校総合体育大会
- パドミントン女子(三位)
- ◎通信陸上徳島県大会
- 棒高跳(三位)出崎将宏
- 砲丸投(三位)井原由実
- 砲丸投(四位)仁木悠介
- ◎四国中学校総合体育大会
- 陸上競技出場
- 砲丸投 井原由実
- 棒高跳 出崎将宏
- ◎市陸上大会

- ◎個人
- Aブロック 一位
- フィールドの部 二位
- 百M(二位)山内勇気
- 棒高跳(二位)出崎将宏
- 砲丸投(二位)井原由実
- 円盤投(一位)井原由実
- 砲丸投(二位)仁木悠介
- 円盤投(二位)仁木悠介
- Aブロック
- 百M(二位)藤本憲志
- 百M(七位)大寺彩加
- 四百MR(二位)
- 高木 蘭 齊藤祐衣
- 木内あき子 田村 彩
- 八百MR(三位)
- 山内勇気 出崎将宏
- 川口智史 市原利浩
- ◎全日本中学校陸上競技選手権大会出場
- 砲丸投 井原由実
- ◎県中郡市対抗陸上大会
- 円盤投(一位)仁木悠介
- 砲丸投(二位)市原由実
- ◎会長杯争奪パドミントン大会
- 優勝 久米亮輔
- 久米遼太
- ◎県新人陸上競技大会
- 砲丸投(一位)仁木悠介
- 文化活動関係
- ◎同和問題啓発ポスター
- 入選 中谷祐介
- 入選 高木 蘭
- 入選 寺山あゆみ
- 入選 木内あき子
- 入選 齊藤祐衣
- ◎人権作文コンクール
- 最優秀賞 井原由実
- 優秀賞 伊坂有那
- ◎市書写コンクール
- 特選
- 中筋悠里 吉本美紀
- 林 拓也 元木俊介
- 久次米美穂 近藤宏香

- ◎同和問題意見発表
- 優秀賞 井原由実
- ◎MBS子ども音楽コンクール
- 器楽合奏の部 入賞
- 合奏の部 優秀賞
- 重奏の部 優良賞
- ◎県防犯協会防犯ポスター
- 佳作 山本満代
- ◎市青少年健全育成会
- 善行生表彰 山本満代
- ◎市音楽創作コンクール
- 入選 井原由実
- 入選 住野麻弥
- 入選 山本満代
- ◎非行防止弁論大会
- 最優秀賞 井原由実
- ◎少年の主張県大会
- 優秀賞 井原由実
- ◎水と緑の図画コンクール
- 特選 久次米美穂
- ◎市科学作品展
- 入賞 豊田莉沙
- 入賞 元木俊介
- 入賞 仁木麻衣
- 入賞 米田麻衣子
- ◎徳島市明るい選挙ポスター
- 銅賞 中谷祐介
- 佳作 堀江真知
- ◎中学生税に関する作文
- 佳作 川口智史
- ◎徳島市置市記念作品展
- 図画の部
- 佳作 元木俊介
- 佳作 仁木麻衣
- ◎市中英語リスニングコンテスト
- 優秀賞 中谷祐介
- 優良賞 川口智史
- 優良賞 井原慎二
- ◎県中英語リスニングコンテスト
- 優良賞 中谷祐介

成人おめでとう

不 動 町 新 成 人 名 簿

平成十二年度

◎女子

志摩 早苗	丸岡 彩
森内 香織	山尾 幸子
日野 香織	中野 広子
大寺真奈美	上原 典子
佐野絵梨子	吉本 恵
坂田 千恵	藤本 香織
鎌田まゆみ	井原 奈々
藤井美由紀	藤本 祐子
宮 祐愛	小川 麻美
花岡 由実	板東 里美
板東 千恵	大西 恵
柴田由佳理	中山奈穂美

◎男子

渡邊 佳昭	佐藤惣一郎
佐野 明仁	赤澤 弘人
日野 俊平	林 善博
杉山 聖至	上田 崇則
樋口 清之	小林 大佑
佐藤 由樹	原田 洋佑
高田 鶴	南條 晃廣
佐藤 弘	藤原 啓員
高橋 智善	郡 淳二
猪上 貴史	

計 四十三名



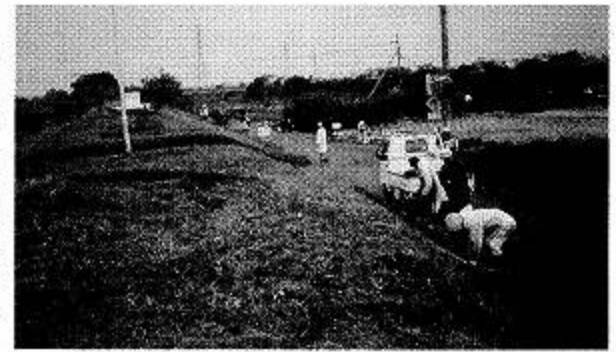
堤防除草作業

年末恒例の鮎喰川左岸堤防美化作業が実施された。

初日の十一月二十八日(火)は、不動小・中学校児童生徒の皆さんが活躍した。草むらにポイ捨てされた空き缶・ビン類を不動橋から弁天橋の間で拾い集めた。

不動中学生徒会は、今年も立て看板を道沿いに点々と設置し、町内美化への協力を呼びかけている。

十二月二日(土)は晴天に恵まれ、婦人会、老人会など町内各種団体から大勢の奉仕者が出て汗を流した。



今回は、不動橋北詰から西への範囲を広げた結果、西町二丁目付近までが見違える程きれいになった。

新しい消防自動車

やってきた

十一月二十五日、不動中学校校庭で入魂式を挙げた消防ポンプ自動車です。

従来の比べ、大型化された新式消防自動車で、シャシーは日野自動車、総排気量は四八九〇cc、定員は六名となっている。

ポンプはモリタ製、等級はA2級、規格放水量は毎秒二、二五〇リットルとなっている。分団員は連日新車を使っての訓練に励んでいた。入魂式当日も六名の分団員によって素晴らしい操作披露

がされ、見事この上なしの放水ぶりであった。なお、今まで私達の安全の為に活躍してくれていた古い消防車は、昭和五十七年から不動分団所に配備されていたもの。入田、涓東両分団からの二台と一緒に中国へ贈られることになった。



砂漠に植林を続けている中国・内モンゴル自治区で森林火災の消火に役立つそう。現地での第二の活動が期待されている。

皆さん、不動地域は火災発生と比較的少ない地域ですが、冬になると堤外の河

徳島市公民館大会

十月三十日 郷土文化会館

表彰者

高齢者教室 元川 洋子
女性学級 加納 幸枝

第二十五回目の大会に、不動町からの三十七人を含む約四百人の参加があった。

岸岡俊輔連絡協議会会長の挨拶のあと、表彰式では市内三十公民館から選ばれた方々に賞状が贈られ、不動町から右の二名の方が表彰状を受けた。



からは山本貞子さんが出演、日頃鍛えた喉を披露した。曲名は「お島千太郎」で歌い終っても拍手拍手の大好評ぶりだった。

第十回徳島市

コミュニティまつり

十月二十一日(日)、落成早々の南井上コミュニティセンターで開催されました。不動地区からもグラウンドゴルフやカラオケ、野菜の即売などの行事に参加しました。

一チーム六人で戦うグラウンドゴルフは即席の編成にもかかわらず、全員力を合わせてがんばりました。

野菜の即売コーナーでは里イモを出品しました。新鮮なので評判がよく、一番最初に完売できました。

お昼から開会式があり、その後演芸大会となりました。不動からは坂田千代子さんが「寄り添い花」で美声を披露してくれました。

祭りの最後は豪華な景品の当たる抽選会です。ピカピカのテレビや自転車がありました。不動町の人で当たったのは懐中電灯と敷き毛布だけでした。

参加者一同にとって、とても楽しい一日を過ごすことができました。



そのあと催された学習発表会では、各公民館代表による舞踊、大正琴、コーラスなどが披露された。不動

橋(はし)の話 その二

三、名田橋

県道一号線の吉野川に架かる我が国最大のプレストレスコンクリート橋で、昭和三十八年に完成した。長さ八〇〇メートル、幅八メートル、不動側から四番目から五番目の橋台付近が、近世史に有名な藍商、材木商として、また銀行家としても



名 田 橋

有名であった久次米兵次郎氏のお屋敷跡といわれている。

四、吉野川鉄橋

JR高徳線の吉野川に架かる下路式ワーレントラスト橋で、昭和九年に完成した。長さ九五メートルである。



吉野川鉄橋

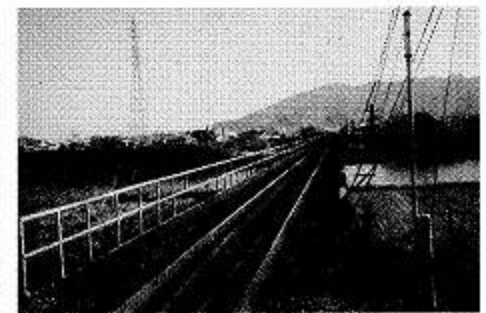
五、鮎喰川鉄橋

JR高徳線の鮎喰川に架かる鉄橋で、吉野川鉄橋と同じ昭和九年に完成した。長さは三五〇メートルである。

交通安全キャンペーン

不動交通自治会(岡田高明会長六十四人)の会員は徳島西署の協力を得て、十二月二十日に交通安全キャンペーンを実施した。

四国三郎橋南詰に集合した会員は手に手にミカンやティッシュの入った袋を持って、通過するドライバーに手渡し、「安全運転」を呼びかけた。



鮎喰川鉄橋

男子優勝!!

青少年健全育成会

綱引き大会に参加して

十月十四日

三年前のこと、「友達が少ない学校でも、みんなが頑張れば(大規模校に)勝てるのね。」と優勝の喜びを語った小六の女の子たち。このことをきっかけに生活に自信を得て、中学校へ進級していったという。

一昨年は雨による延期で出場を見送った。昨年は学校行事と重なっての不参加だった。

今年市立体育館に会場が移ったため、延期の心配がないのが幸いした。

往復とも路線バスを利用した。開会式を終わってすぐ、白紙で臨んだ予選リーグは男、女ともに二勝一敗で通過した。

決勝トーナメント一回戦

女子は惜しくも「加茂」に敗れ二回目優勝の夢は消えた。一方の男子は一回戦「応神」に快勝、準決勝でも「川内」にせり勝った。

決勝戦は強豪「沖洲」が相手である。熱戦の末、「沖洲」を下し、第十二回大会優勝の栄を得た。

表彰式における晴れやかな顔々。みんな輝いていた。応援の保護者や先生方の協力に感謝しながら一緒に食べたお弁当、色々な体験を得た子ども達は、この日の結果を自信として、明日へ向かって大いに活動していくことであろう。



徳島市社会同和教育 研究集会

十一月十一日(土)入田コミュニティセンターであり、不動からの四十人をはじめ約二百五十人が集まり、同和教育や人権問題に理解を深めた。



「私の同和教育」を研修課題として、指定取組発表や問題提起をきいたあと、三分科会別に学習した。どの分科会でも、部落差別は根強く残っている。だから同和教育はそっとしておけば自然になくなるという認識は誤りである。江戸時代に政治的に作られた同和教育の歴史をしっかりと理解し、差別を暮らしの中から追放しようと確認し合っ

市民総参加 秋の大運動会

十月九日 徳島市陸上競技場

体育の日に第二十回という節目の大会が開かれた。わが不動町のチームも団体総合での上位入賞を目標として入場行進より七〇人の大人数で参加した。

プログラムが進むことにチームのムードも得点も上昇していったのにも拘わらず、あの突然の記録的な集中豪雨に襲われて、ついに大会は中止となってしまった。

しかし我らの不動体育協会は連続二十回出場団体として表彰状を授与された。当日ご参加の皆様、どうもありがとうございました。



本大会は平成十二年をもって一区切をつけることになり、来年からは内容面で新しくスタートすることになっております。どうか皆様、平成十三年度もご支援ご協力の程よろしくお願いたします。(不動体育協会 藤本 護)